

地域トピックス

◆鍋を囲み夢を語る (綾織町)

「綾織ナベナベサミット」は12月4日、綾織地区センターで開催されました。綾織町地域連絡協議会とあやおり夢を咲かせる女性の会が中心となり開いたもので、約80人が参加しました。

町内の5団体から出された納豆汁など地元の素材を生かした鍋を囲み、これからの綾織町の夢を語り合いました。また、撮影で遠野を訪れていたタレントの辰巳琢郎さんも参加し、会場は大いに盛り上がりました。



5種類の鍋に舌鼓を打つ参加者

◆親子でケーキ作りを楽しむ(土淵町)

「親子手作りケーキ教室」(土淵児童クラブ・土淵地区センター主催)は12月11日、土淵地区センターで町内の親子20人が参加して開催されました。

この教室は、クリスマスに向け家庭でも手軽にケーキを作りたいという要望から開催したもので、参加者は焼き上がったスポンジケーキに思い思いの飾り付けをして楽しみました。参加した菊池健志朗君は「クリスマスにもまた作りたい」と笑顔を見せていました。



熱心にケーキの飾り付けをする親子



息の合った演奏で参加者を魅了したミニコンサート

◆人権問題を語り合う

ハートフルステージ〜音楽と劇で「人権を考える集い」(遠野人権擁護委員協議会など主催)は、十二月三日、あえりあ遠野中ホールで約百三十人が参加して開催されました。

開会に先立ち、クラシック・ミニコンサートが開かれ、参加者はヴァイオリンとピアノが奏でる美しい音色を堪能しました。寸劇では身近に潜む人権問題を題材にした「無限勇者カグライガー」を上映。その後、参加者が物語に隠されていた人権問題について話し合いました。最後に人権擁護委員の佐々木徹さんの伴奏で会場の全員が「ふるさと」を合唱し閉会しました。



元気な歌声を響かせた少年少女合唱隊の児童

◆22人の歌声響く発表会

第十六回遠野少年少女合唱隊発表会は十一月二十六日、あえりあ遠野中ホールで開催され、二十二人の隊員が日ごろの練習の成果を披露し、元気な歌声を会場いっぱいに響かせました。

遠野地方に伝わるわらべ歌を織り交ぜながら、第一部は「秋空に響く歌声」と題し、「春風の吹くころ」など八曲を、第二部は「心が弾むハーモニ」と題し、「となり」のトトロ」など十一曲を披露。アンコールでは、会場に訪れた父母らも一緒に「世界中の子どもたちが」を合唱し、一曲一曲心を込めて歌う子どもたちの姿に、会場からは盛んな拍手が送られました。

◆命の大切さを訴える

北朝鮮による拉致・人権問題を考える「遠野講演会」(市青年団体協議会主催)は十二月九日、市民センター大ホールで開かれ、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会の横田早紀江さんが拉致問題の早期解決を訴えました。

横田早紀江さんは「拉致を人ごとと思わず、一秒遅かったら自分が被害者だったかもしれないと思い、一人一人が真剣に考えてほしい」と呼び掛けました。夫の滋さんが撮影した長女めぐみさんの十三歳までの写真も映されたほか、拉致問題に関するパネルが展示され、約六百五十人の参加者らは拉致問題の重要性を再認識していました。



拉致問題の早期解決に向け支援を呼び掛けた横田早紀江さん

◆身近なトイレを考える

「トイレフォーラム in いわて」(同実行委員会主催)は十一月二十六日、あえりあ遠野で福祉関係者ら約百三十人が参加して開催されました。

基調講演で日本トイレ協会理事の上幸雄さんは、中越地震被災直後の例を挙げ、忘れられがちなトイレ確保の重要性を強調しました。また、日ごろから被災を想定して、トイレのない環境で訓練することの必要性を提唱しました。

その後に行われたシンポジウムでは、四人のシンポジストが、誰もが使いやすい魅力のあるトイレについて、さまざまな意見を交わしました。



理想のトイレについて意見を述べるシンポジスト

まちの話題



軽快な音楽に合わせて東京ブギウギを披露する附馬牛町婦協6区の皆さん

◆自慢の歌や踊りを披露

市地域婦人団体協議会(多田静子会長)主催の歳末助け合い演芸大会は十二月十一日、市民センター大ホールで開かれました。

各町の地域婦人団体協議会の会員ら約二百五十人が、ウエスタンダンスやTAKIOソラン節など十八演目を披露したほか、男女共同参画をテーマに千葉教子一座と市地域婦人団体協議会役員による寸劇が披露されるなど、ユーモアあふれる舞台に九百三十五人の観衆を沸かせていました。

昭和五十一年に始まった演芸大会は今年で三十回目。演芸大会の益金は、市社会福祉協議会を通して共同募金会に寄付されました。